

## 平成29年度第1回佐渡市地域自立支援協議会 議事録

日時・場所	日時：平成29年7月27日（木）午後1時30分～午後3時30分まで 会場：アミューズメント佐渡 小ホール		
議 題	1 開 会 2 議 題 （1）第2次佐渡市障がい者計画実績状況評価及び次期計画の目標（案） （2）第4期佐渡市障がい福祉計画数値目標達成状況評価表（案） （3）第3次佐渡市障がい者計画・第5期佐渡市障がい福祉計画・第1期障がい児福祉計画の策定に係るアンケート調査票（案）について 3 その他 4 閉 会		
会議の公開・非公開	公開		
参加者	（1）医療機関を代表する者 ・真野みずほ病院 事務長 市川 一之 （2）障害福祉サービス事業所を代表する者 ・社会福祉法人佐渡市社会福祉協議会 課長補佐 須藤 信宏 ・社会福祉法人佐渡福祉会 理事長 弾正 佼一 ・社会福祉法人しあわせ福祉会 常務理事 山田 秀夫 ・社会福祉法人とき福祉会 理事長 末武 正義 （3）関係行政機関の職員 ・新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部 部長 神山 恒夫 （4）市長が必要と認める者 ・佐渡市手をつなぐ育成会 会長 佐藤美恵子 ・佐渡地域精神障害者家族連合会 副会長 坂下ムツ子 ・佐渡市民生委員児童委員協議会 理 事 清水 英次 ・佐渡連合商工会 副会長 村川 一嘉 ・佐渡公共職業安定所 所 長 倉又 学 ・新潟県立佐渡特別支援学校 校 長 杉坂 芳文 <div style="text-align: right;">計12名</div>		
傍聴者	・新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部 主査 小林 義則 ・社会福祉法人佐渡福祉会 岩の平園園長 渋谷 正和 事務局長 石塚 泰子 ・社会福祉法人とき福祉会 相談支援事業所 さど 相談員 相田 都代 相談員 近藤 良子		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人国仲福祉会 相談支援事業所 はまなすの家</li> <li>・子ども若者相談センター</li> </ul> <p>相談員 原田 恭子 センター長 児玉 恵子</p> <p>計 7 名</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民福祉部社会福祉課</li> </ul> <p>課長 中川 宏 課長補佐 計良 好昭 障がい福祉係長 兵庫 研司 主事 藤井 祐希</p> <p>計 4 名</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 次佐渡市障がい者計画実績状況評価及び時期計画の目標 (案)</li> <li>・第 4 期佐渡市障がい福祉計画数値目標達成状況評価表 (案)</li> <li>・各障がい計画の位置付け及び今後のスケジュール (案)</li> <li>・障がい児アンケート調査総括 (案)</li> <li>・障がい者アンケート調査総括 (案)</li> <li>・アンケート調査 (未就学児) (案)</li> <li>・アンケート調査 (小・中・高校生) (案)</li> <li>・アンケート調査 (18 歳以上 65 歳未満) (案)</li> <li>・アンケート調査 (65 歳以上) (案)</li> <li>・アンケート調査 (施設入所者) (案)</li> </ul>
進行及び協議内容	<p>1. 開会</p> <p><b>[事務局進行]</b></p> <p>&lt;配布資料の確認&gt;</p> <p>&lt;市民福祉部社会福祉課長あいさつ&gt;</p> <p>&lt;参加者自己紹介&gt;</p> <p>&lt;座長の選出&gt;</p> <p>「佐渡市地域自立支援協議会開催要綱第 4 条 1 項に基づき、参加者の互選により、定められるものであるため、参加者の意見を聞きたい」</p> <p>「事務局一任 (参加者より)」</p> <p>「事務局案では、佐渡地域精神障害者家族連合会の山本会長にお願いしたいところであるが、あいにく本日欠席のため、山本会長に意向確認したところ、前任者の佐渡市手をつなぐ育成会の佐藤会長の座長への推薦があったため、本会は佐藤理事長にお願いしたい」</p> <p>「異議なし (参加者より)」</p> <p>&lt;座長に議事進行依頼&gt;</p> <p>&lt;座長よりあいさつ&gt;</p> <p><b>[座長進行][事務局内容説明]</b></p> <p>2. 議題</p>

(1) 第2次障がい者計画実績状況評価及び次期計画の目標(案)の協議。協議を実施する上で、内容が非常に多いため、事務局より簡潔に節ごとに行い、その都度意見等を確認する。

〈第1節 啓発・交流の促進について〉事務局より説明。

<質疑・意見なし>

〈第2節 生活支援の充実〉事務局より説明。

<質疑・意見なし>

〈第3節 各種福祉サービスの充実〉事務局より説明。

<質疑・意見なし>

〈第4節 生活環境と安全・安心の島づくり〉事務局より説明。

<質疑・意見>

・新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部 部長 神山氏

「19ページの4-3 防災対策(2)避難行動要支援者名簿の整備と活用について、当局も災害時支援者名簿を佐渡市に提供しているところだが、個別の避難計画については、作成が進んでいないと聞いているが、今後の見込を教えてください」

事務局

「県の方から名簿の提供を受けており、昨年度、優先度(人工呼吸器を装着している難病指定者・それらを除く優先度が高い者)が高い方から個別支援計画を作成に着手しているところである」

〈第5節 教育・育成〉事務局より説明。

<質疑・意見なし>

〈第6節 雇用・就労の支援と所得保障〉事務局より説明。

<質疑・意見なし>

〈第7節 社会参加の促進〉事務局より説明。

<質疑・意見>

- ・新潟県立佐渡特別支援学校 校長 杉坂氏

「31ページのスポーツ活動等の推進について、総合型地域スポーツクラブはどうなっているのか。また、次期に向け、計画はあるか」

事務局

「総合型地域スポーツクラブについては、今年の3月まで市内に一つあり、社会教育課と連携を図ってすすめていきたいといったところもあったのですが、実はNPO法人が解散されてしまい、残念ながらその連携が図れてない現状である。しかしながら、総合型地域スポーツクラブがなくても障害者スポーツを振興するうえで、今後、取り組んでいきたい」

- ・新潟県立佐渡特別支援学校 校長 杉坂氏

「障がい者スポーツのことで全国大会に出る生徒が一人いるが、今後も生涯にわたっての障がい者スポーツの組織を作ってもらえたらありがたい。スポーツ協会の方と先日話す機会があって、どのような形で連携できるか、一緒にできるのかとスポーツ協会の方も考えていきたいと言っていたので、佐渡市、スポーツ協会含めて、そのような形で連携できれば良いと思う」

〈第8節 保健・医療の充実と障害の発生の予防〉事務局より説明。

<質疑・意見なし>

<議案(1)の他の質疑・意見>

<質疑・意見>

- ・社会福祉法人佐渡福祉会 理事長 弾正氏

「意見ではないがお願いさせてほしい。私どもが、議案を理解するのは相当の時間がかかる、私の個人的な問題かもしれないが、時間的な余裕をいただいて出席させてほしい。当法人は、月に一回経営会を開催する。その際に本協議会に向けて、役員の方たちの意見を聞いて参加、発言させていただきたいので、早めの通知と資料をお願いしたい」

座長 佐藤氏

「ご意見にもあったとおり、資料の事前送付をもっと早くしてほしいの

と資料の文字が細かすぎて見えにくい。次回以降事務局で改善をしてほしいと思う」

・新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部 部長 神山氏

「市民の啓発啓蒙とのことで課長さんからも挨拶の中であったが、相模原事件を踏まえて、市民への理解ということに対する市の考え方と今後どうしていくのか、どういう観点に重点を置きたいのか変化があれば、ききたい」

事務局

「相模原の事件を受けてではないが、市民のみなさまに理解をしていただくことが必要と考えている。障がい福祉フォーラムを含む、支援者を中心としたフォーラムも昨年開催して、今年2回目を開催した。そういった経験を踏まえて、色々なことができるよう考えていきたいと思っている。この計画の見直しの中で、どういった形ですすめられていくのかは、協議していただいたうえで、実のあるものにしていきたい」

・社会福祉法人佐渡福社会 理事長 弾正氏

「我々に対しての世間の目は、非常に暖かい目でみてもらっており、盛り上がっていると思う。市でも福祉に力を入れているのもわかるが、本協議会が今までの委嘱形式でなく、参加者という位置付けになっていることについて、位置付けが低くなったのではないかと思う部分がある。市より今まで以上に前向きやっていく、力を入れていくという言葉を引ききたい」

事務局

「本計画は市として大変重要な計画であり、みなさん多くの関係者たちの意見を踏まえて、少しでもいい計画、また、少しでもいい事業、それから少しでも障がい者にやさしい島づくり、色々な形を構築していく中で当然、座談会という形でも意見をいただかないと成り立っていかないのため、是非とも意見をいただいて会議の場だけでなく、平日頃思われたことを市にいただき、計画に反映させていきたい。今年度より委嘱等の通知があるわけではないが、位置付けが低くなったことは決してないので、引き続きのご理解ご協力をお願いしたい」

・新潟県立佐渡特別支援学校 校長 杉坂氏

「37ページの次期計画に向けての目標について、父親向けのペアトレ等、対象者を拡大とあるが、先日父親に対して、ペアトレ指導を一回やったことがあるが、父親の方も参加してやれる内容がすごく良いなと感じた。このような事業を増やしていければ良いと思う。教育相談等で小

学校、中学校、高校と色々と研修や授業、相談を受ける機会あるが、気になるのは、発達障がいを持っている子供たちで、家庭環境等の問題があって母子、家族の愛着があまり育たないことで、保育園、小学校、中学校でも先生方も困って、なかなかうまくいかない。不適切な養育とか、うまく愛着が育たない子供に積極的に関わるというのではなく、今は親がスマホみながら子育てしている状態で、愛着関係が育たないようなことがあったりするため、危機感をもっている。なにかそういった対策も考えていけたら良いと思う。生まれてから色々な機関で関わっていくことが重要である。子育てが困っているけど、どこに聞いたらいいかわからないという話も聞くため、そのあたりも整理していったら良いと思う」

(2) 第4期佐渡市障がい福祉計画数値目標達成状況評価表(案)の協議。  
事務局より一括説明を行い、その後、意見等を確認する。

<事務局より一括説明>

<質疑・意見>

- ・社会福祉法人佐渡福祉会 理事長 弾正氏

「グループホームであるが、当事者の方々を受け入れて喜んでもらう方法として、我々が今生活している空間以上の快適性を保った施設整備をしていくことの必要だと思っている。例えば通常、4千万円で建てられる建物が6千万円、8千万円かかってしまう。国、市からも補助は出るが、それだけでは、法人運営等が厳しい状況もある。是非市へ相談にいきたいと考えているため、相談にのっていただきたい」

- ・真野みずほ病院 事務長 市川氏

「評価課題のところみると、佐渡の抱える難しさがある。指定事業がないというところが多くみられるし、年々利用者の増加が見込まれる中で、必要な人材等の確保に関して市がどの程度、取り組んでいるのか。その一方で、今後市として職員削減するような方向性を示されている。そうすると、必要な人材の確保は難しいのではないか。本計画と整合性の点はどうなのか。「絵に描いた餅」となりかねないと思うのだが、その辺はどう考えているのか」

事務局

「市としては福祉だけではなく、医療、介護分野についても人材確保は当然、行っていかなければならない。ただ、それは職員という意味だけでなく、そういった支援する資格者等の確保については、官民一体として取り組んでいかなければならない課題であるという風に考えている。

当部署でも専門職の増員は、人事にも要望しているが、なかなかすぐに入ってこないのが現状である。人材の確保についても、看護師等に対しての補助などを実施しており、色んな形で行っている。市の職員は、今すぐ削減という事は言われているが市の職員というわけではなく、佐渡市全体として、必要な専門職は確保すべきだと考えている」

真野みずほ病院 事務長 市川氏

「事務局側として例えば、看護師の養成に対して補助金を出すことにより、人材を確保しようという考えということであるが、きっかけは良いと思うが、次に課題となるのが雇用の確保である。先ほど、事務局が言われたのは、我々民間においても、そういったサービスの充実さを求めていくといったことだと解釈している。しかしながら、あくまでも民間なので財政的な後ろ盾がない限りは、人材の確保はできない。そういったところを市として、財政支援等をどうしていくのかという視点も必要と考える。佐渡総合病院を建てた時も、市の税金を使わせていただいたところですし、今後我々が生活していく中でどんなサービスが必要なのか、市民の税金を投入していただければ、より充実した計画の実施に繋がっていくのかなと思う。何が本当に必要なサービスなのかというところを精査していくことが必要であると思う」

・新潟県立佐渡特別支援学校 校長 杉坂氏

「指定業者がないからできないところがいくつかあると思うが、高等部の卒業生についても、重度の生徒が何名かいる。グループホームを重度施設の代わりに利用したいという生徒がいるのだが、中々難しい状況である。そうすると、島外の施設とかの事を考えないといけませんが、島外でも厳しい状況である。佐渡島内の中で、卒業した後のグループホームなど施設入所が整備・実現できるように、すすめていってほしい。特に施設入所であるとか、生活介護で子供がいるような場所であるとか、等級変更であるとか、特にサービスがないものについては、順序的に整理をお願いしたいと思っている。高等部卒業生であるが、今年一般就労だいたい3～4割ぐらいであった。比較的、ほかの県内の特別支援学校(知的)の中では高い方だが、佐渡島内の事業所は50人以上の事業所が非常に少なく、50人以上の事業所のほとんどが障がい者雇用をしている状況である。そのため、中小企業や個人事業主に雇用してもらっている。そういった意味では、佐渡の人の温かい人情というか障害者の理解で、早期就労が、実現になっている状況がある。ただ、そうはいつでも就労移行の場が少ないため、どんどん増えていかないと受け皿がない状況でもある。補助金の活用から、民間と連携していく仕組みができれば良いと思っている」

(3) 第3次佐渡市障がい者計画・第5期障がい福祉計画・障がい児福祉計画の策定に係るアンケート調査票(案)の協議。事務局より一括説明を行い、その後、意見等を確認する。

<事務局より一括説明>

<質疑・意見>

・新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部 部長 神山氏

「このアンケートは、今回で何回目になるか」

事務局

「6年計画である、第1次障がい者計画、第2次障がい者計画の際にそれぞれアンケートを実施しており、また、障がい福祉計画は3年に一度福祉のサービスの利用状況を別に調査しているところで、この6年に一度の調査については、今回3回目の調査となっている」

新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部 部長 神山氏

「3回目ということであるが、調査項目はかなり変更しているか」

事務局

「基本的には、調査項目は前回との比較をする為にほとんど残してある状況である。障がいスポーツ、意思決定支援、差別解消法の項目は、以前のものから新しく加えたものがあるので、ボリューム的には増えている」

・真野みずほ病院 事務長 市川氏

「人口が6万人きって5万数千人の中で、調査対象となるのが1割には満たないまでも、ざっと言ってしまえば10人に1人がそういった対象になってしまうことに衝撃を受けている。そういった実情を踏まえて、計画を作成しないといけない。ここには新しく委員になった方もいるし、私自身も障害者手帳何級の方が何人で、どのような障がいを持っている方がどれだけいて、その方が施設にいるのか、また、在宅しているのか、それから自立支援や精神通院医療、育成医療といったサービスを利用しているかどうか、市としては把握できていると思う。そういった数値をどこかの段階で提示していただきたい。アンケートは正確に書いてくれるかどうかは不明瞭であると思うし、アンケートは大まかな傾向であるとして、考えざるを得ないと思う。基礎となるところの市内の手帳所持者数等について、委員に市における数値を周知したうえで、評価をしたほうがよいと思う。次回、検討するにあたり、基礎数値の提示をお願いしたい」

社会福祉法人佐渡市社会福祉協議会 課長補佐 須藤氏

「実際にアンケートに回答するときに答えていくのは大変だろうと思う。関係者やご家族の方が代わりに回答いただければ、本当に良い事だと思うし、アンケートも重要な項目だと思うのですが、実際どのくらいの回収率があったか、教えていただきたい」

<事務局より前回計画の冊子を参加者に配布>

事務局

「先ほど配布しました黄色の冊子、第2次障がい者計画、第3期障がい福祉計画の中の13ページに記載があるとおり、手帳所持者全員に4,514名の方で回収率は61%となっている。あと緑の冊子、第4期障がい福祉計画について、こちらの方もアンケートを実施し、12ページに記載があるとおりとなる。こちらのアンケート対象者は手帳所持者ではなく、サービスを受けられている方を対象とし、回収率は6割であった」

※アンケート項目等については、8月3日（木）までご意見等があれば、受け付けますので、事務局までご連絡下さい。

3. その他

<社会福祉協議会より>

「平成29年度成年後見制度法人後見推進セミナー」のPR>

・質疑・意見なし

<座長よりあいさつ>

<座長終了>

[事務局進行]

4. 閉会